

Topic 1

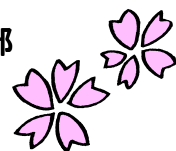
◇今春入試合格体験記 合格者喜びの声

梅田 稜太 くん

■合格大学：東洋大学 理工学部 機械工学部

■学校名：私立 武蔵野高校

■校舎名：光が丘校



● 合格を手にしたの感想

嬉しさと安堵の感情が湧き上がりました。中学時代は勉強をおろそかにして、納得いく高校に進学できませんでした。高校に入ってから学校の勉強をしっかりとやったという努力が報われて、安心と嬉しさがこみ上がりました。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

大学は、自分に興味がある知識を身につけることができ、実践を通して知識を高められる授業が多く、教わった知識を形にすることができるため、決めました。

● 俊英館に通塾して良かったところは？

わからない問題を質問したときに、とてもわかりやすく説明してもらえ、苦手を克服することができました。

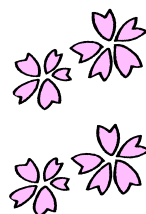
● 後輩へのアドバイス

学校や塾の先生に言われたことは黙ってやり続け、分からない事があればすぐに聞きに行くというやり方で、自分のために先生方を利用してください。

野辺 匠 くん

■合格大学：帝京平成大学 健康メディカル学部 医療学科

■学校名：県立 松山高校 ■校舎名：寄居中央校



● 合格を手にしたの感想

AO入試のI期では受からず苦しみましたが、あきらめずに勉強してよかったです。

● 大学・学部を選んだきっかけは？

救急救命士になりたいくて、救急救命士国家試験の受験資格がとれる大学を選びました。

● 俊英館に通塾して良かったところは？

映像授業だからわからないところは何回も見る事ができるし、勉強に集中できる環境がありました。

● 後輩へのアドバイス

受験は苦しくて辛いけど、最後まであきらめないで頑張ってください。



◇ 定期テスト対策！？ 「A君の定期テストの思い出」

教え子で印象的な生徒がいました。仮にその生徒をA君とします。A君は中学3年の9月に塾に入ってきました。部活を引退後少し出遅れて受験勉強を始めた負い目からか、必死に勉強している様子が教えている側からも分かりました。9月、10月の北辰テストは奮いませんでしたが、12月の北辰テスト(埼玉県の会場テスト)では偏差値70を超え、地域のトップ校に入学しました。

もともと中学時代も部活にのめりこんでいた生徒でしたので、高校に入ってまた部活中心の生活に戻りました。高校の勉強は、なぜか英語の予習だけは行っていました(後で理由を聞いてみると、部活の先輩に「英文法の予習を怠ると2年になって俺のように困るぞ!」と脅されたそうです)、その他の科目の予習や宿題はほとんど行わずに高1の1学期を終えようとしていました。

そんなA君がしょんぼりして塾にやってきたので声をかけると、「数Iの期末テストの点数が…」。

テストを見せてもらおうと、10点でした。ほんの数ヶ月の間にこれだけ成績は落ちてしまうのかと、中学時代には考えられない点数を目の当たりにして、A君はひどく落ち込んでいました。塾では英語の指導のみでしたので、数学の勉強はテスト期間前だけになっていました。普段の高校の授業が分からなくなってきたことをA君は、A君自身に隠していたのでした。いわば「部活に逃げている」のです。それ以後A君は数学にも力を入れて勉強をはじめましたが、はじめの単元でつまづいてしまったのをなかなか取り戻せず、平均点前後を行ったり来たりする状態が続きました。

そしてA君に転機がおとずれます。2年生の2学期に理系・文系の志望を高校に提出しなくてはならなくなり、なんとA君は理系を志望することを決めたのです。ただ、1年の1学期期末テストで10点という数字をたたき出しているため、さらに難しくなる高3の数学で受験レベルの学力をつけることができるか心配であると相談を受けました。

A君がこの先、理系として受験勉強を乗り切っていくためには今のままでは不十分だと感じましたので、次のように言いました。

「次の定期テストの数学で精一杯努力し、A君自身が満足できる点数を取ることができたら、理系に進みなさい。精一杯努力しても点数が伸びなければ理系の素質がないということです。また精一杯努力できなければ、理系にはA君自身がそれほど進みたくはなかったのだとあきらめなさい。」と。そのときA君にアドバイスした数学のテスト勉強法は「教科書と学校指定の問題集に載っているテスト範囲の問題を全部解くこと」だけでした。

その日からA君の数学への取り組みは変わりました。教科書の例題を解き、練習問題、章末問題を解き、学校指定の問題集を、時間をみつけては解いていました。自力で解けた問題には斜線を引いて、間違えた問題には赤ペンで印をつけて後日解き直すということを繰り返していました。どうしても理解できない問題は塾で質問していましたが、基本的には自分で考え理解しようと努めていました。高3になって理系数学のメイン単元になる「微分積分」が試験範囲だったのも良かったのでしょう。A君自身の理系の素質の有無がこの試験で決定されるという覚悟で取り組むことができました。2週間程の勉強でテスト範囲の問題の9割以上に「斜線」が引かれていました。

テスト返却日、A君は「微分積分」の数学のテストを鞆から取り出し見せてくれました。「やったね、A君!」そこには94点と赤字で書かれたテストがありました。A君の実力を十分出しきった答案でした。「先生、これで僕は理系に進んでも大丈夫だね。」クラス2位の成績を数学でとり、自分自身の数学の力に自信を得たA君は理系志望を確定させました。高3になってからは数学の予習は欠かさず行い、教科書と学校問題集は全ての問題を解き、その他に受験勉強として塾の講座や参考書・問題集に取り組んでいました。そして難関国立大学の工学部に現役で合格しました。

高1の1学期の数学のテストで10点を取り、高2の2学期で94点を取るまで、期間にして1年半、点数にして84点の上昇が見られた生徒です。そこには勉強のエッセンス(成績が上がる下がるの“法則性”)が隠されているように思います。みなさん自身の経験に照らし合わせて考え、ぜひ自分の学習に役立ててみてください。

1 東大 英語民間試験を使わない方針

2020年度から始まる大学入学共通テストで英語の「4技能」を測るため導入される民間試験について、東京大学は3月10日、合否判定に使わない方針を明らかにした。民間試験の目的や基準が異なるなか、入試に必要な公平性の担保などに疑問があるためだという。民間試験の活用は大学入試改革の目玉の一つだが、東京大学が合否判定に用いなければ、他大学の方針にも影響を与えるとみられる。

東京大学では3月10日に合格発表があり、記者会見で民間試験について問われた入試担当の福田副学長は「現時点で、業者テストを入試として用いることは正しくないと考えている」「今の状態では(合否判定に)使わない可能性が極めて高い」と述べた。民間試験の成績提供を受ける場合も、活用を合格者の入学後の追跡調査などに限定するという。



2 高校英語教科書 さらに4技能重視へ

高校の新学習指導要領は、2022年度入学生(18年度の小学6年生)から全面実施される。「大学入学共通テスト」も、この学年が受験する時期(2025年1月)に合わせて、新指導要領に完全対応したものとなる。注目点は外国語(英語)で4技能(聞く・読む・話す・書く)を総合的に習得することがいっそう重視されることである。これに伴って、まだ文法偏重と言われている教科書も大きく変わるといわれている。

4技能を指導することは、現行指導要領でも同じはずだが、実際の大学入試では、センター試験で「聞く」(リスニング)は入っているものの、「読む」(筆記)が中心で、個別試験もほとんどが「読む」「書く」に限定して出題されている。そのため、高校の授業も、入試を意識して文法事項に力を入れざるを得ず、学年が上がるほど4技能を活用した言語活動が低調になっているのが実態である。

新指導要領では、「コミュニケーション英語」が「英語コミュニケーション」に変更された。さらにコミュニケーション能力の育成を重視する姿勢を徹底したいという意思を読み取ることができる。また、現行の「英語表現」と「英語会話」は、「論理・表現」I~IIIに替わる。交渉やスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションといった言語活動を通して、英語による発信力を強化する科目である。加えて、小・中・高を通して、4技能を「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5領域に分けたことも見逃せない。外国語学習の国際的な基準であるCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)に合わせたものである。これは、共通テストの英語4技能評価はGTECなど外部の英語資格・検定試験を活用することになっているが、これらの外部検定もCEFRに準拠しているからである。

3 中退・留年率、進路状況など 大学に公表義務化へ

政府は大学改革の一環として、大学に義務づけている情報公開項目を拡充する方針を固めた。文科省の関係省令を改正し、2020年度にも実施したい考えである。

大学の運営状況や成果に関する情報を公開することで、受験生が進学先を選ぶ際の指標が広がり、教育の質を確保する狙いがある。政府の「人生100年時代構想会議」が夏までにまとめる基本構想にも反映させる。

大学の情報公開は学校教育法で定められており、省令で項目が決まっている。今回の見直しでは、学生が大学でどのような能力を身に付けて卒業していくかに焦点を当てる。4年間で卒業する学生の割合、中退率、平均学修時間、満足度のほか、進学先や就職先に関する情報も公開対象とする方向で調整している。

■大学の情報公開

現 状	公 開 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究の目的 ・基本組織 ・教員の数, 実績 ・入学, 在学, 卒業, 進学, 就職の各人数 ・授業科目, 内容, 計画 ・学修成果評価, 卒業認定の基準 ・施設, 設備, 教育研究環境 ・授業料, 入学金 ・修学, 進路選択, 心身健康面の支援
今 後	追 加 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ・留年率, 中退率 ・修業年限期間に卒業する学生割合 ・学生の成績, 学修時間 ・教員1人当たりの学生数 ・進学先, 就職先など進路状況 ・学生の成長実感, 満足度

◇ 大学入試の基礎知識 第2回

<学部・学科選びは？ 志望校選びは？>

学部・学科選びのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・学問や研究の内容 ・教授陣やゼミの充実度 ・他学部, 他学科との連携 ・取得できる資格 ・大学院への進学 ・先輩たちの感想 	大学選びのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスの立地, 雰囲気 ・設備の充実度 ・キャリア教育などの就職支援 ・就職実績 ・奨学金, 授業料免除など ・留学制度
--------------	---	-----------	--

■ 学部・学科選び

①科目の得意 or 不得意で選ばない

特定の科目が「得意だから」とか「苦手だから」という基準だけで選ぶと、入学後に「こんなはずじゃなかった」と後悔する可能性が高くなります。「何を学びたいのか」「将来、どのような職業に就きたいのか」を真剣に考えて、学部・学科の選択をしましょう。

②学びの内容をしっかりと調べる

同じ学部・学科名であっても、大学によって学ぶ内容がかなり異なることがあります。また、近年は「社会共創学部 環境デザイン学科(愛媛大学)」「情報連携学部(東洋大学)」など、一見どのようなことを学ぶのかがわかりにくいユニークな名称の学部・学科等が増えています。必ず各大学のホームページで、その学部・学科が自分の学びたいことが学べる環境かどうか確認しましょう。

■ 志望校選び

進みたい学問系統、つまり学部・学科が決まったら、志望校を検討します。近年、大学を中退する理由の約3分に1がミスマッチだといわれています。「有名だから」「都会の大学だから」という知名度や立地や、「偏差値が高いから」「今の学力で入れるから」など難易度だけで選ぶと入学後に「こんなはずじゃなかった」と後悔する可能性が高くなります。進学目的や自分の適性に合った大学かを事前に自分自身目で確かめることが必要です。夏休みなどに実施されるオープンキャンパスに参加するなどして確認しましょう。オープンキャンパスのほとんどは受験生だけではなく、高1・2生にも開放されています。

*確認すべき重要ポイント

①カリキュラム

大学のカリキュラムは学校ごとに特色があります。東大のように1~2年次は教養学部で教養科目を中心に学び、3年次から各学部で専門科目を学ぶ大学もあれば、一橋大のように1年次から専門科目が組み込まれている大学もあります。また、国際基督教大のように、学生が主体的に科目を選択し、1つの専攻を極めるもよし、2つの専攻を組み合わせるもよしといった、とても自由度の高いカリキュラム体系をとっている大学もあります。

②キャンパス立地や設備

近年、都市圏の大学では利便性の向上によって学生の確保を図るため、キャンパスの都心部移転・回帰の傾向が強まっています。また、学部や学年によって、キャンパスが異なる場所にある大学も多く、キャンパスが駅から離れている場合、スクールバスの有無など通学手段を確認しておく必要があります。キャンパスの雰囲気や活気、部活動・サークル活動の充実度も重要なポイントになりますので、オープンキャンパスだけではなく、学期中に訪れてみましょう。